

論文番号 82

担当

札幌医科大学 医学部 薬理学講座

題名 (原題/訳)

Acute and delayed antithrombotic effects of alcohol in humans.

ヒトでのエタノールの急性で持続した抗血栓効果

執筆者

Lacoste L, Hung J, Lam JY

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Am J Cardiol 87(1): 2-85 (2001)

キーワード

エタノール、抗血栓効果、赤ワイン、血小板機能、心機能

要旨

アルコールの、特に赤ワインでの摂取は血小板機能を抑制することが示されている。しかし、酒に含まれるアルコールが、摂取後ある一定時間(6時間)まで、血小板に依存した血栓形成を抑制するか解っていない。この研究はこの点について検討した。流動血液への動脈メヂウムの暴露によって形成した(深部動脈損傷あるいは plaque rupture を模倣した)血小板血栓は ex vivo での Badimon 環流チャンバーで 754 秒(正常動脈流)あるいは 2,546 秒(狭窄動脈流)のざり強度の環流速度で測定した。12 人の健常被験者で約 60 ml の 40%アルコールを摂取前、摂取後 20 分、6 時間の時点で測定を行った。血中アルコール濃度は、摂取前 1.1 ± 0.1 、20 分後 8.2 ± 0.7 、6 時間後 1.3 ± 0.2 mmol/L であった。摂取前と比較して、低ざり強度環流での血小板血栓形成はアルコール摂取後 20 分(57%)および 6 時間(61%)で有意に減少した。同様に、高ざり強度環流での血小板血栓形成も抑制され、20 分では 68%、6 時間では 64%まで減少していた。男性と女性での効果は同等であった。このように、ヒトでの適度な量のアルコール摂取は血小板血栓形成を有意に抑制する。このアルコールの抗血栓効果は、血中アルコール濃度が摂取前の状態に戻る 6 時間後でも持続し、このことが臨床的に報告されている男性や女性でのアルコールの心機能保護効果と関係していると考えられた。